

羽生連覇



新毎日新聞

2月17日(土)
2018年(平成30年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

号外



続いた宇野銀



男子フリーの演技を終え、感情を爆発させる羽生。佐々木順一撮影

【平昌・福田智沙】平昌冬季五輪第9日の17日、フィギュアスケートの男子フリーが行われ、ショートプログラ

ム(S.P)首位の羽生結弦(23) || AN A || が206・17点をマークし、合計317・85点で2014年ソチ冬季五輪に続く金メダルを獲得した。2連覇は、1948年サンモリッツ五輪、52年オスロ五輪を制したディック・バトンさん(米国)以来66年ぶり。日本勢の冬季五輪での個人種目連覇は初めて。

SP3位の宇野昌磨(20) || トヨタ自動車 || はフリーでも健闘し、初の五輪で銀メダルを獲得した。同20位の田中刑事(23) || 倉敷芸術科学大大学院 || は18位だった。

羽生は昨年11月のグランプリ(GP)シリーズNHK杯の公式練習で右足首を痛め、今大会が昨年10月のGPロシア杯以来、約4カ月ぶりの実戦。団体戦を回避して、個人戦に挑んだ。

SPでは、4回転ジャンプを2本組み込む構成で、自らの持つ世界歴代最高点112・72点(17年オータム・クラシック)に迫る111・68点。SP2位のハビエル・フェルナンデス(スペイン)に4・10点差を付け、フリーでも会心の演技で優勝を決めた。

仙台市出身。4歳から競技を始め、10年の世界ジュニア選手権で優勝した。10〜11年シーズンにシニアに転向後、カナダに練習拠点を移し、ブライアン・オーサー氏に師事。これまでGPファイナルは13〜16年に4連覇。世界選手権も過去に2度、制している。

購読お申し込み <https://mainichi.jp/> 専用フリーダイヤル 0120-468012

毎日新聞のニュースサイト

ヨムハマニチ